

2021年3月

第163回 中小企業景況調査報告書  
(2021年1-3月期) 〈小売業編〉

※DIとは…

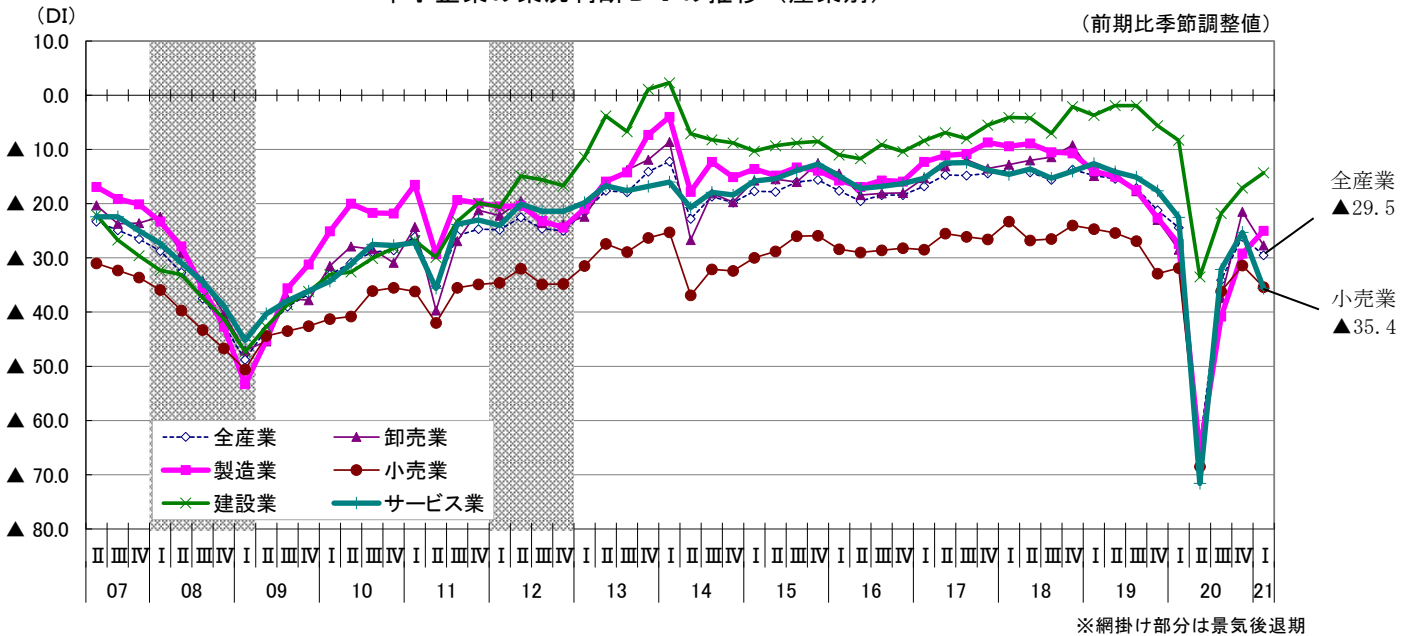
「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

中小企業基盤整備機構 企画部 調査課  
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1  
TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)

URL:[https://www.smrj.go.jp/research\\_case/research/survey/index.html](https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html)

中小企業の業況判断DIは、3期ぶりに低下した。  
前期と比べた全産業の業況判断DIは、3期ぶりに低下した。(▲26.1→▲29.5)

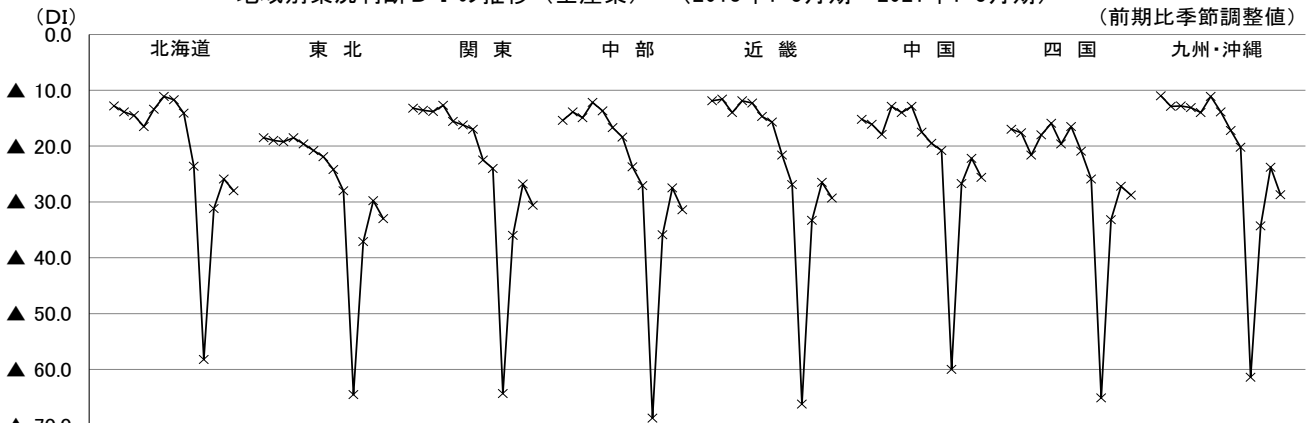
中小企業の業況判断DIの推移(産業別)



〈地域の業況〉

九州・沖縄、中部、関東、中国、東北、近畿、北海道、四国の全ての地域でマイナス幅が拡大した。

地域別業況判断DIの推移(全産業) (2018年1-3月期～2021年1-3月期)

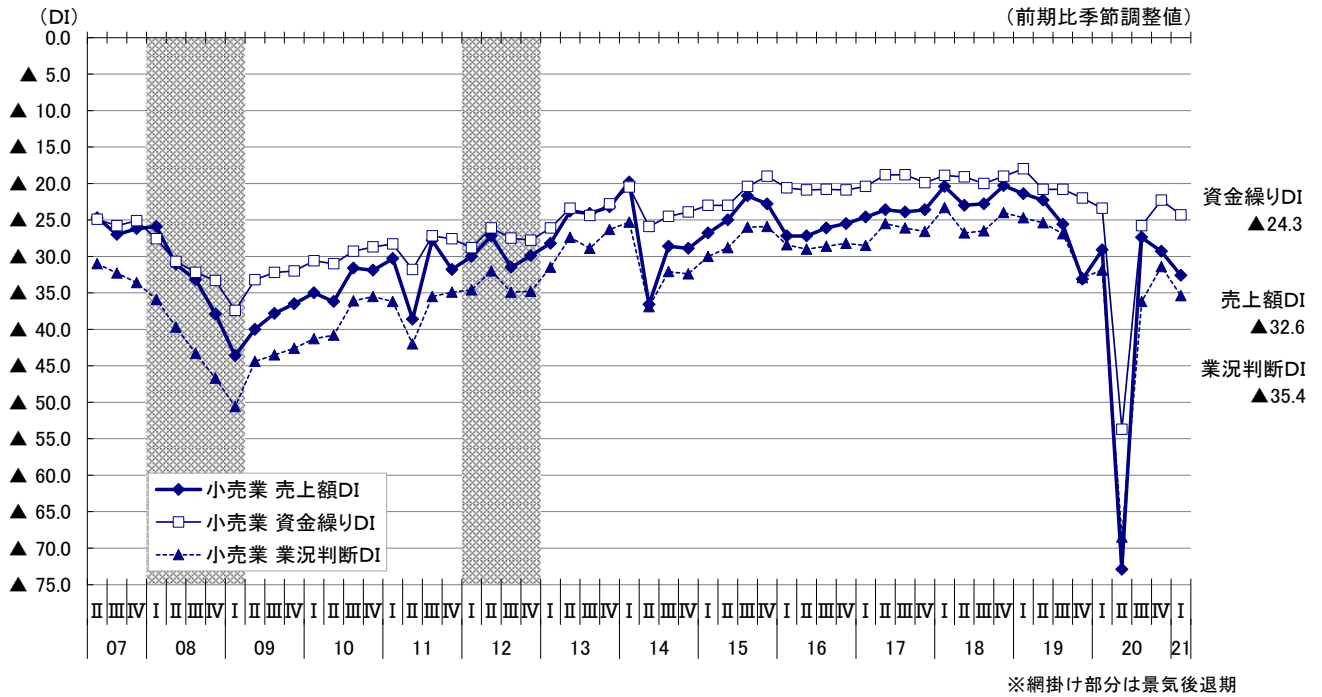


(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。  
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。  
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合

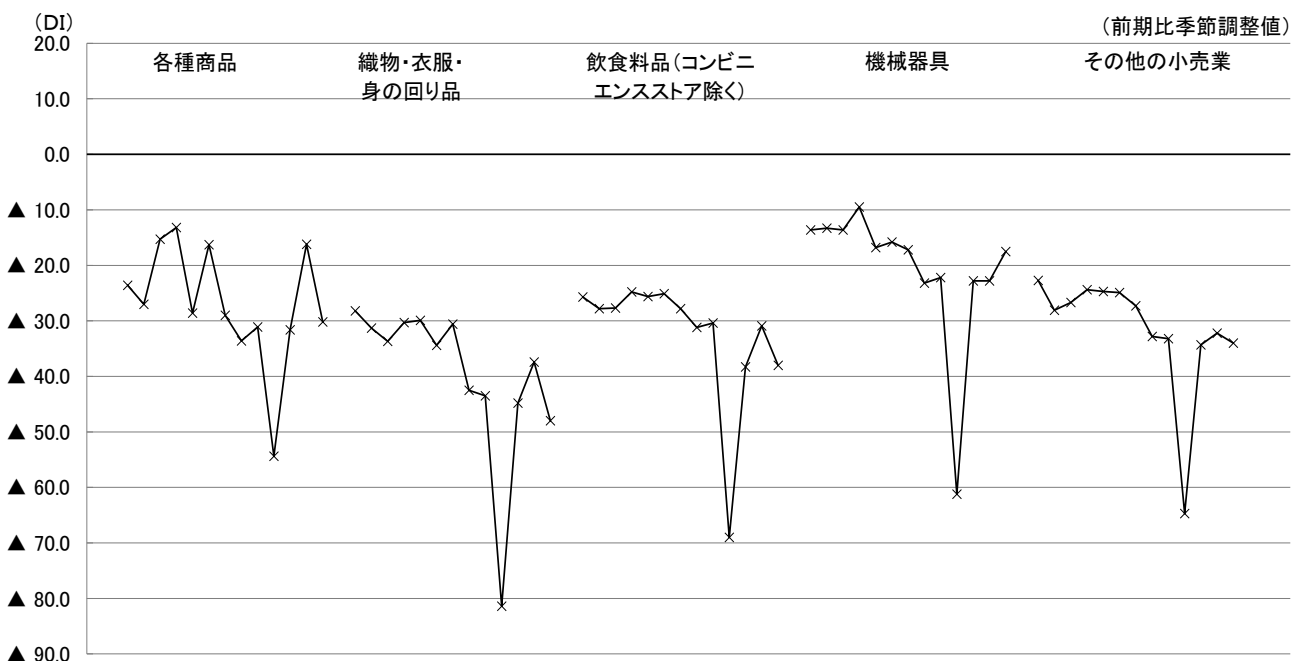
# 1. 小売業の動向

小売業の業況判断DIは、▲35.4（前期差4.0ポイント減）とマイナス幅が拡大した。また、売上額DIは▲32.6（前期差3.3ポイント減）とマイナス幅が拡大し、資金繰りDIは▲24.3（前期差2.0ポイント減）といずれもマイナス幅が拡大した。

業種別に見ると、機械器具で▲17.5（前期差5.3ポイント増）とマイナス幅が縮小した。一方、各種商品で▲30.2（前期差14.0ポイント減）、織物・衣服・身の回り品で▲48.0（前期差10.6ポイント減）、飲食料品（コンビニエンスストア除く）で▲38.0（前期差7.1ポイント減）、その他の小売業で▲34.0（前期差1.8ポイント減）とマイナス幅が拡大した。



小売業 業種別 業況判断DI（2018年1-3月期～2021年1-3月期）



## 2. 小売業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、小売業全体で12.2%（前期差2.9ポイント減）と減少した。  
（単位：%）

	2020年 1-3月期	2020年 4-6月期	2020年 7-9月期	2020年 10-12月期	2021年 1-3月期
各種商品	16.4	11.9	26.5	30.0	23.7
織物・衣服・身の回り品	6.4	5.4	9.6	11.0	9.6
飲食料品 （コンビニエンスストア除く）	8.8	9.4	13.6	14.3	11.4
機械器具	15.2	10.3	15.8	16.3	13.4
その他の小売業	11.9	10.3	16.3	16.4	13.2
小売業計	10.3	9.2	14.3	15.1	12.2

## 3. 小売業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様に「需要の停滞」が1位にあげられており、「消費者ニーズの変化への対応」が2位となり、「大・中型店の進出による競争の激化」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (1-3月期)	需要の停滞 (27.2%)	消費者ニーズの変化への対応 (17.3%)	大・中型店の進出による競争の激化 (10.0%)	購買力の他地域への流出 (9.2%)	販売単価の低下・上昇難 (4.2%)
前期 (10-12月期)	需要の停滞 (26.6%)	消費者ニーズの変化への対応 (17.0%)	大・中型店の進出による競争の激化 (11.7%)	購買力の他地域への流出 (9.1%)	販売単価の低下・上昇難 (4.1%)

## 4. 小売業の地域別業況判断DI

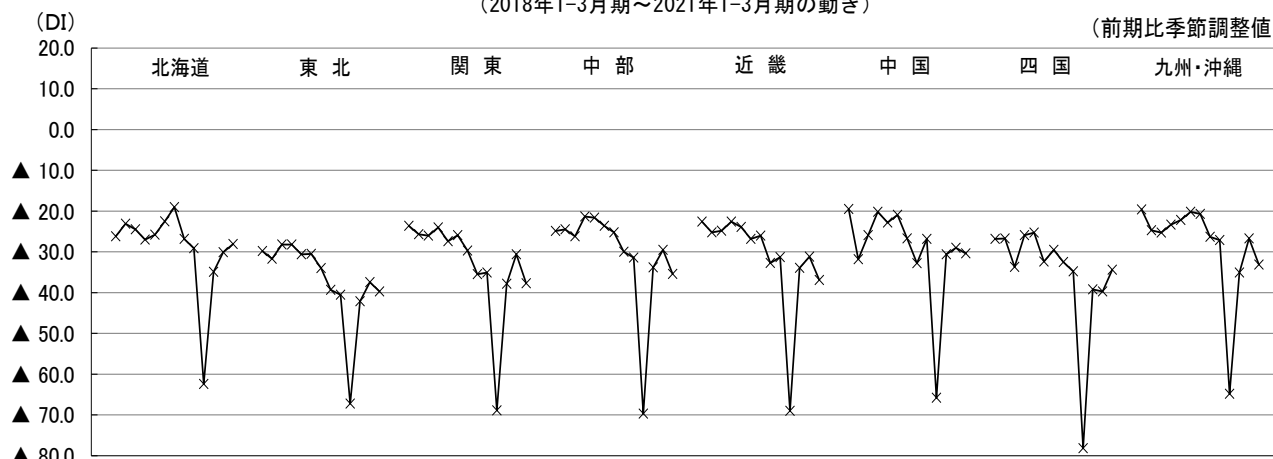
地域別に見ると、四国、北海道でマイナス幅が縮小し、関東、九州・沖縄、中部、近畿、東北、中国でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

小売業

(2018年1-3月期～2021年1-3月期の動き)

(前期比季節調整値)



(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

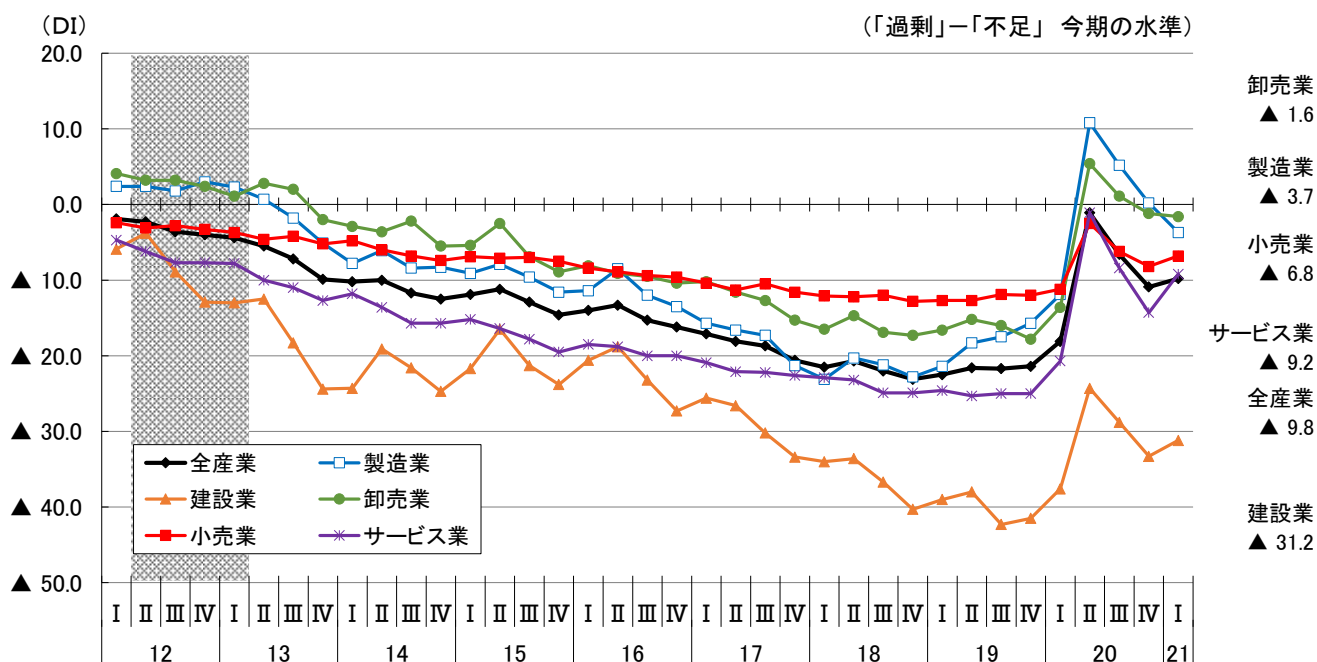
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

## 5. 小売業の従業員数過不足D I（今期の水準）の推移について

従業員数過不足D I（「過剰」－「不足」、今期の水準）は、（前期▲8.2→）▲6.8（前期差1.4ポイント増）と3期ぶりに不足感が弱まった。

産業別従業員数過不足D Iの推移



### 【調査対象企業のコメント】

- ・ コロナ禍での影響を大きく受けた業種として、苦境が続いている。ワクチン接種による明るい話題での景気回復を祈るばかりである。以前よりも増して、知恵を出して、日々努力しているこの頃でもある。（道北・オホーツク）
- ・ 冬期は、売上げは見込めず、2月のイベントの縮小などで、売上げが3割減で、又、小中高生の生徒減で、学販の売上げの減少が、とまらない状態です。この先、大会等の中止もあり、不安あり。（青森）
- ・ コロナ禍と天候の安定、株高等の影響で自転車の販売は久しぶりに好調。特にe-Bikeやスポーツバイクが好調。修理も増加。一方、仕入は、コロナ禍で遅延し、機会ロスを招いている。残念。（神奈川）
- ・ 1月は、コロナの影響だけでなく大雪で交通の混乱から来客数が大幅に減り、結果前年度の売上の半分以下となった。2月は新商品の発売が重なって前年より1.7倍となった。（富山）
- ・ 仕入れが上がり利益が減少。卸各社と交渉し影響を抑える必要がある。設備工事は一般家庭では減少気味であるが、業務用や集合住宅オーナーなどが意外と設備投資に力を入れてくれていて何とかなっている。（奈良）
- ・ 売上低迷の中、仕入先が数店、廃業となり新しく仕入先を探している。仕入商品の仕入単価や商品の定価が少しずつ高くなっている。（山口）
- ・ 1月から3月は、毎年売上が減少しますが、コロナでいろいろな行事が行なわれないので、それに関する売上がないからと思われれます。また、移動販売車の利用者がいる事も原因の一つと思われれます。（愛媛）
- ・ 神楽、春祭りといった大型イベントが軒並み中止になっており、売上は良くない。県から各種支援事業が出ているが、売上要件が該当するかどうかギリギリのラインであるため、これが該当しなかった時はかなり厳しい。（宮崎）

### 【調査要領】

- (1) 調査時点：2021年3月1日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,912のうち有効回答数18,210（有効回答率96.3%）（産業別の動向は、小売業の有効回答数4,434を集計したもの。）